

年度のまとめや新年度のスタートに月例報告を活用する

4月から不登校はどのくらい増えているのかな？

今学期、保健室によく来ていた子供たちは何日休んだのかな？

自分の学級や学年の様子はわかるけど、学校全体ではどうだろう？

新年度のスタートにいかしたいな・・・。

今年度の校内のデータをまとめて、成果と課題を教職員で共有し、次年度につなげる。

月例報告でわかること

【学校調査票①】

学校名 _____ 担当教員氏名 _____

調査Ⅰ 児童生徒の不登校等に関する調査 () の数が一致すること

理由別区分 1年 2年 3年 4年 5年 6年 計

不登校

調査Ⅱ 児童生徒の問題行動等に関する調査

問題行動等

調査Ⅲ 児童生徒のいじめの認知に関する調査

いじめの認知

【学校調査票②】 調査Ⅳ 児童生徒の7日以上欠席者に関する調査

学校名 _____ 担当教員氏名 _____

月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

7日以上欠席

データが管理職と生徒指導担当のみの閲覧で終わっていませんか？

より広く情報を共有することで、子供の異変を察知できた事例も多くあります。多くの情報を持つ養護教諭や学年主任、特別支援教育主任等にデータを見てもらうことも考えられます。

不登校・長期欠席に関しての活用例

○新規・継続の不登校児童生徒数を分析する。

(中学校例) H29 合計10名
H30 合計12名

2名増ですが・・・

〈内訳〉

H29年度	H30年度
・3年生2名 → (卒業)	
・2年生4名 → 3年生5名 (継続3名/新規2名)	
・1年生4名 → 2年生4名 (継続3名/新規1名)	
(6年生3名) → 1年生3名 (継続2名/新規1名)	
11名	継続は8名

新規4名

【成果】

H29年度に不登校だった生徒のうち、3人は復帰もしくは29日以下の欠席にかわりました。学校の成果です。

【課題】

新規の不登校生徒が4名います。休みははじめの対応はどうだったのでしょうか。「魅力ある学校づくり」も、もう一度見直してみましよう。

【分析の視点例】

- ◆3月までの欠席状況を見て、どの学年の誰が、どんな理由で30日以上欠席しているのかを分析する。
- ◆月ごとの不登校状況を確認し、どのような対応・支援を行ったのかを振り返る。
- ◆月ごとの「7日以上欠席」の状況を確認し、急増した学年や月、その理由(行事や人間関係等)を分析する。

ここがポイント！ 新年度体制に向けて〈取組例〉

- ★不登校を生まない「魅力ある学校づくり」を推進する
- ★休みははじめの対応を決める
 - ・月ごとの「7日以上欠席」を共有する。(掲示等)
 - ・欠席が〇日続いた場合、担任と〇〇担当が家庭訪問を行う。〇日続いた場合、ケース会議を行う。
- ★スクリーニング会議の効率化や見直しを図る
 - ・欠席、遅刻、保健室来室、う歯(虫歯)数、諸費用支払いの遅れ等、スクリーニングシート項目の整理・見直しをする。
- ★関係機関や連携手順を確認する
 - ・年間の月例報告から「教職員以外での支援の状況」の特徴を分析する。
 - ・関係機関の役割や校内担当者、教育相談コーディネーター等を確認する。

分析したことを次の学年に引き継ぎますね。